

## 音源の位相チェック実験(28)

### —CD における確認(7)—

#### 1. はじめに

前報(27)に引き続き、CD における位相チェックの検討を行います。

#### 2. 音源の位相チェックの試聴方法

今回もメインシステムに戻って試聴していきますが、対応するアナログ盤との比較を行ってみます。

CD は、CD ドライブから読み出し、fidata HFAS1-S10 から Brooklyn DAC+に USB 経由で送り出し、その位相反転機能を活用します。今回、アナログは、試聴対象に入っていません。

試聴した音源は、前報(27)でも試聴したバッハの作品で下記のとおりです。

##### CD

##### EXTON OVCL-00614

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 2 番・無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番  
郷古廉

##### ユニバーサルミュージック UCCY-1049

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ全曲・無伴奏ヴァイオリンパルティータ全曲  
千住真理子

##### SONY Classical SRCR-2677

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番・無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番  
前橋汀子

#### 3. 音源の位相チェックの試聴結果

EXTON OVCL-00614 の郷古廉盤は、2015 年の録音で、正相で定位もよく、透明度が高く、間接音も豊かで焦点があっていますが、位相反転するとそういった印象が損なわれてしまいました。

ユニバーサルミュージック UCCY-1049 の千住真理子盤は、2014 年の録音で、正相で定位もよく、恐らくガット弦の深みのあるノスタルジックな音で焦点があっていますが、位相反転するとそういった印象が損なわれてしまいました。

SONY Classical SRCR-2677 の前橋汀子盤は、1988 年の録音で、ガルネリの深々とした豊かな音で焦点があっていますが、位相反転するとそういった印象が損なわれてしまいました。

#### 4. まとめ

上記の3人のヴァイオリニストは、いずれも生演奏を聴く機会があり、奏法や楽器の音色の微妙な違いが、CDでも聴き分けられます。デジタル録音での録音年代が新しく、正相で問題なさそうです。

以上